

こどもまんなかアクション の取組について

2025.11.28

こども家庭庁 成育局
成育環境課長 安里賀奈子

こどもまんなか
こども家庭庁

「こどもまんなかアクション」の展開

1. 趣旨

こどもや子育て中の方々が気兼ねなく様々な制度やサービスを利用できるよう、地域社会、企業など様々な場で、こどもや子育て中の方々を応援するといった社会全体の意識を変えていくことを目的として行う。

2. これまでの取組

令和5年5月 「こどもまんなか応援サポーター」がスタート
「こどもまんなかアクション」始動
「こどもまんなかアクション公式LINE」スタート 現在お友だち6.4万人超
「リレーシンポジウム」各地で開催
(令和6年度までに全国29か所、7年度も18か所程度開催予定)

5月 「春のこどもまんなか月間」
11月 「秋のこどもまんなか月間」
夏休み期を中心に応援サポーターと連携した取組などを実施。

**40道府県、337市区町村および3043の団体・企業・個人が
こどもまんなか応援サポーター参加。**

(令和7年6月9日現在)

広がっています！ こどもまんなか応援サポーター

40道府県 337市区町村含む 企業・団体・個人の参加3043に拡大中 ※6月9日現在

神奈川県



滋賀県



大垣市



日本生命



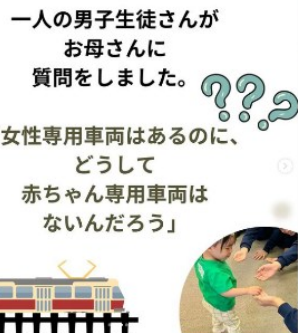
ユニ・チャーム



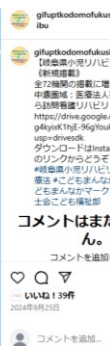
江崎グリコ



ママの働き方応援隊



岐阜県理学療法士会こども福祉部



高校生が教える無料学習塾 NEW STEP (菊池市)



長浜こどもまんなか



#こどもまんなかやってみた

「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウム の開催

こども・子育てにやさしい地域づくりのために、自治体を主体としたシンポジウムを全国で開催。

◆R6年度開催実績 18自治体

山形県、前橋市、北九州市、青森県、滋賀県、鹿児島市、新潟県、佐倉市、取手市、大田区、京都市、仙台市、鳥取県、浜松市、羽咋市、呉市、熊本県、豊中市

「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムin仙台
つながりあおう！みんなで語りあおう！が開催されました。



「連携・協業」と「世代を超えた交流・居場所づくり」をテーマに、令和6年12月21日（土）に「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムin仙台 つながりあおう！みんなで語りあおう！が開催されました。仙台こども財団の湯浅理事からは同財団実施の「こども・子育て支援団体の実施調査」を発表。

さらに、複数のNPO法人による活動事例の紹介やこども家庭庁からの有益な情報発信に加え、参加者が事案としてお互いの思いや考えについて意見交換をするグループワークも実施されました。

講演 | つながりあう・多世代交流～「こども・子育て支援団体の実施調査」を踏まえて～
(発表) 湯浅 誠 (一般財団法人仙台こども財団 理事長)

こどもたちが企画・運営を担ったゴミ拾いやお祭りの様子、地元企業と共に取り組んだ男性育休の推進など、設立1周年を迎えた同財団の活動が紹介されました。また、こども・子育て支援団体の現状把握と連携・協業の促進を目的に実施した実施調査のデータも紹介（7月実施/同財団のHPで公開）。調査結果からは、世代を超えた交流・居場所づくりに取り組む団体が多いことが明らかとなり、そのような団体のみならず、企業、学校などが、ますます連携を深め多世代が交流する機会やこどもの居場所づくりの重要性なども語られました。



世代を超えた地域交流が大切だと語る湯浅理事長

活動事例紹介
(発表) 小岩 孝子 (NPO法人 FORTYOU にこここの家 理事長)、菅原 花奈 (NPO法人 ふうとばんく東北 AGAIN 副代表理事)、安里 賀奈子 (こども家庭庁 成育局成育環境課長・こどもまんなかアクション推進室長)

地域福祉に取り組む「FORTYOU にこここの家」からは、防災事業の一環として、防災ゲームを通じたこどもたちへの啓発活動や「かっここ和太鼓隊」と名付けられた和太鼓コミュニティによる地域とこどもたちの交流創出が紹介されました。次いで登壇した「ふうとばんく東北 AGAIN」は、企業や団体同士の関係構築や活動資金についてなど、フードバンク事業を推進するための具体策を紹介。備蓄倉庫の確保などについても、地元企業の協力を得ながら、事業が拡大していると説明しました。最後は「こども家庭庁」から子育て支援の充実や施策が紹介されるとともに、地域団体と行政が連携を深めることで、ますます子育て支援の輪が広がっていくことを期待でき、国もそれを後押ししていると語られました。



活動報告では、地域を元気にする多様な取組も こども家庭庁は子育てを応援に合わせ支援する拠点を解説

グループワーク「連携・協働」と「世代を超えた交流・居場所づくり」

参加者全員が5人程度のグループをつくり、自身が所属する団体の課題や取組、連携について話し合いました。地元企業や学校教員、地域ボランティア、こども食堂の運営者など、それぞれ違う視点からの意見が交わられ、最初はぶつちかかった会話も終盤には「もう少し話したい」と大盛り上がり、「田舎と都会での、子育て環境の違いを知れてよかった」「学校の先生の切実な思いをしっかりと受け止めてくれた」と感想が寄せられました。当日は学生レポーターの富永良由さんもグループワークに参加。熱気あふれる会場で飛び交う意見を興味深く聞いていました。



5人程度のグループで自然の議論が展開されました

【概要】
名称：「こどもまんなかアクション」
場所：仙台市青葉区（宮城県仙台市青葉区区内道無蔵 青葉山公園）／日程：令和6年12月21日（土）

「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムin大田区
2024年12月15日開催
会場：大田区民ホール・アブリコ地下1階



すべてのこどもが
幸せになれる社会へ

◆こどもまんなか応援サーター宣言

シンポジウム出演者の横澤夏子さん、関東学院大学の湯浅教授、こども家庭庁の横濱道徳氏、鈴木氏、さらには包括連携協定を結んだ富山県や大学、区内の子どもたちがこども子育て支援に優しい社会を目指して「こどもまんなか」を宣言

◆横澤夏子さんによる特別講演
みんながハッピーになれる子育てとはー



こどもまんなかアクションは、すべての人がこども子育て中の方々を応援するあたらしい社会を築いていくために行われている

STEP 01 参列者発表
STEP 02 目玉となる発表
STEP 03 自治体と民間の連携を大切に

三宮の専業主婦でありタレントとして活躍する横澤夏子さんによる特別講演では、「なっちゃん流」子育て論と題して、みんながハッピーになれる子育てについてトークセッションが行われた。専業主婦としてもさまざまな場面で活躍している横澤さんが、日々子育てに奮闘しているという、正統派ではないからこそ、自分らしく生きようとする姿勢、仕事と育児の両立に「危ない」ではなく「イメージ化」をするということの重要性を紹介。横澤さんならではの面白さや「ハッピー」のつくり方を紹介した。さらに、自らも利用した行政のサービスやこんなサービスがあったらいいという希望も語った。第一子子育てを体験した人も多くみられる中、悩みを抱え込む前に周囲の手を借りる大切さや、甘えてもいいという言葉を何度も伝えた。何よりも、子育てをする自分が笑顔でいることが一番大切なことだと強調した。

◆パネルディスカッション ～仕事と子育ての両立～

パネルディスカッションでは、区内における児童館や相談窓口が54か所あること、より子育て支援にとって充実した大田区に向けた今後の取り組みについて区長が語られた。大田区の歴史や文化の魅力をさらに広げ、持続可能な地域コミュニティを創造するために、各分野の専門的な視点、一人の「担い手」(母)としての視点からディスカッションが盛り上げられた。



パネルディスカッションの様子

◆参加者の声

大田区のホームページからシンポジウムを知った。自分から行かないと情報を得る機会がないから参加して良かった！ 自治体があったら、子どもは母親に預けて安心して参加できた。

育休中企業訪問で、児童館でシンポジウムを知った。スウェーデンの外資系企業に勤務している。育休を切りやすい環境がある。行政の制度や支援を知り、何を求めるのか検討する必要がある。

【概要】
「こどもまんなかアクション」リレーシンポジウムin大田区 主催：東京都大田区 共催：こども家庭庁
学生レポーター：立教大学 石川 眞

◆R7年度も
全国18か所程度の
開催を予定

(学生レポーターによるレポート)

こどもまんなか応援サポーターの取組好事例を庁のホームページやアクション公式LINEで紹介。参加の輪を広げています。

ホームページ掲載例

【こどものアイデアでつくる遊び場 ようかいスタンプラリー】 岩手県立児童館いわて子どもの森

掲載日：2025年1月24日
実施地域：岩手県二戸郡

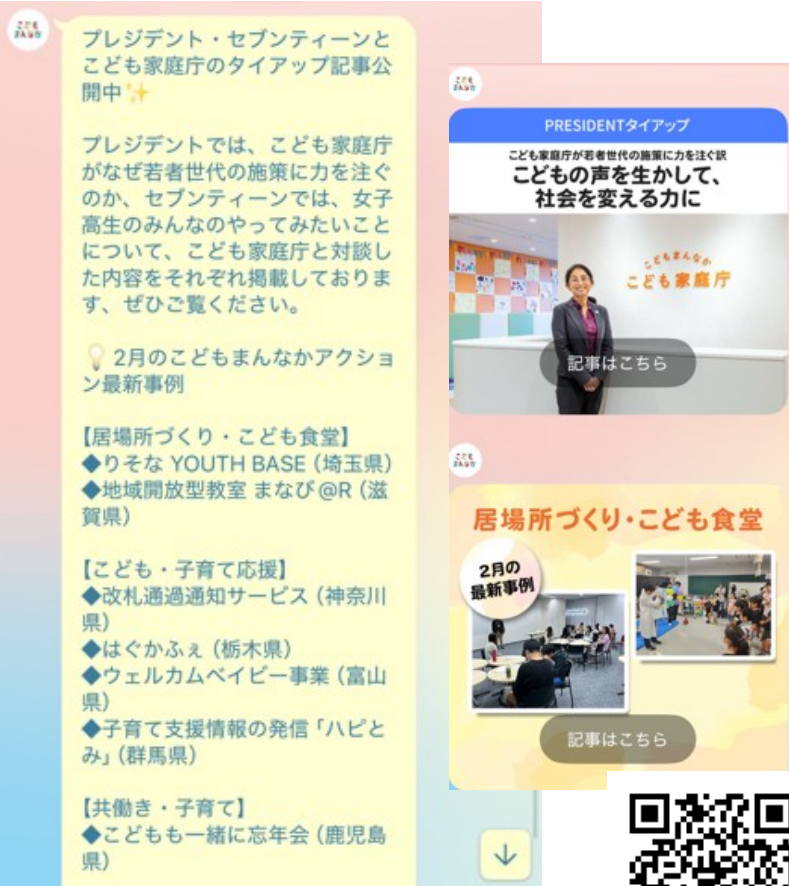


■取組概要

いわて子どもの森には、『ようかいスタンプラリー』という遊びがあります。2006年の開始から18年が経った今も大人気。広い建物の中に隠れているスタンプ10個を探すシンプルな遊びにも関わらず人気の秘密は…スタンプの絵柄である妖怪は、こどもたちが考えたオリジナルキャラクターなんです。お茶目で憎めない、ダジャレのきいたユーモアたっぷりの妖怪たちは、3年ごとにリニューアルしています。今年度は岩手県内・外から1,423通りの応募があり、館内・WEB投票で選ばれた10匹がスタンプにしました！すでに次のリニューアルに向けて新しい妖怪を考えているこどもや、こども時代の“推し妖怪”を覚えてくれる大人もいるほどで、この先そうです。



LINE配信イメージ



「こどもまんなかアクション」の取組例①

【空の旅 事前搭乗体験会】 JALグループ

掲載日：2025年4月25日

実施地域：全国



■取組概要

JALグループでは、発達障がいのあるお子さまとご家族を対象に、飛行機利用に対する不安の解消を目的とした「事前搭乗体験会」を2022年より開催しています。

飛行機利用の流れに沿って、空港での搭乗手続きや、機内でのシートベルトの着用、ドリンクサービスやトイレを流す時の大きな音などを体験していただき、参加したお子さまからは、「飛行機に乗るのが楽しみになりました」というお声もいただきました。

事前搭乗体験会以外にも、搭乗の流れをご説明した「スカイチャレンジ」という動画やパンフレットをホームページに掲載しています。

JALグループはこれからも、誰もが旅を通じて、より豊かな人生を楽しめる社会の実現を目指してまいります。



■担当者コメント

事前搭乗体験会への参加やスカイチャレンジ動画の視聴を通じ、「飛行機を利用する際の不安や緊張が減り、安心して利用できそうです」とのお声をいただいております。また、適切な対応ができるように社員の学びも深めて参ります。

「こどもまんなかアクション」の取組例②

【ANAそらばす教室】 全日空（ANA）

掲載日：2025年4月25日

実施地域：全国



■取組概要

ANAグループでは修学旅行を控えた特別支援学校を対象にANAグループ社員が全国の学校に出向き、障がいの特性に応じた搭乗支援教室を実施しています。座学と疑似体験を通じて、搭乗手続きから保安検査、機内への搭乗、着席、降機の一連の流れを学ぶことができ、参加者の不安を解消し、安心して快適に飛行機を利用できるようサポートしています。

2019年の開始以来2024年までに約760名の生徒にご参加いただきました。

ANA公式ホームページには教室にて使用している「そらばすビデオ」、「そらばすブック」も掲載しておりますので各自のご家庭でも教材を元に学ぶことができます。



■担当者コメント

始めは緊張されていた生徒が教室終了後は笑顔になっている姿が毎回印象的です。先生方からは「慣れた体育館で本番に近い体験ができ、見通しを持つことができた。」とポジティブな感想をいただいています。

「こどもまんなか応援サポーター」への参加ご案内（登録手続き等不要、自主参加の取組です）

【こどもまんなかの趣旨に賛同し、自らもアクションに取り組んでいただける個人、団体、企業、自治体などを「こどもまんなか応援サポーター」と呼んでいます】

- 1 こどもまんなかの趣旨に賛同する。
- 2 サポーターご自身が考える「こどもまんなか」なアクションを実行する。
- 3 ご自身・団体のアクションを発信したり、地域社会に広く参加を呼びかける。

「こどもまんなか」

こどもや若者の意見を聴き、その意見を尊重し、こどもや若者にとってよいことは何かを考え、自分ができるアクションを実践していきます。どんなこどものことも考えていきます。

SNS(X、Instagram、YouTube)で発信する際にぜひ、**#こどもまんなかやってみた**をつけて発信ください。こども家庭庁は「いいね」やホームページ・公式LINEでの事例紹介等でみなさまのアクションの見える化をサポートします。

応援サポーターのみなさまとはさまざまな連携を行っています。

※こどもまんなかアクションに関するこども家庭庁ウェブサイトはこちら



◆「こどもまんなかマーク」を活用いただけます。（詳細はHPへ）

◆好事例を、庁のホームページや公式LINEを活用してご紹介しています。

◆こどもまんなか月間や夏休み期間にはサポーターと連携した取組も行っています。

例：VIVISTOP博多
こどもたちのプロジェクト「究極の映画館をつくろう」
庁職員が試写会・模擬記者会見に参加

こども
まんなか

9:33 4G 98%
こども家庭庁
【キッズカフェ】NPO法人
ひと・まち・ジャンクショ
ン

掲載日：2024年10月17日
実施場所：京都府久世郡久御山町



2025年1月・2月開催予定の「キッズカフェ」
に向けて練習会をしています。
毎週金曜日、こども第三の星場所のこ
どもたちと「ばんごう会」では、観
望中

9:34 4G 98%
こども家庭庁
【こども若者ボイス】長浜
こどもまんなか

掲載日：2024年9月26日
実施地域：滋賀県長浜市



LINE
公式LINE

